

第1回宇治市高齢社会対策協議会 会議録

会議の概要

(1) 日時 平成27年6月30日(火) 14時～16時15分

(2) 場所 宇治市役所 8階 大会議室

(3) 出席者

1 委員

岡本民夫会長、伊藤義明副会長、桂敏樹委員、門阪庄三委員、中村長隆委員、
岩本利広委員、久西義治委員、原保彦委員、勝谷幸子委員、桂あゆみ委員、
小山茂樹委員、荻原豊久委員、佐藤政紀委員
(欠席 岡田まり委員、兒玉邦子委員)

2 事務局

土屋副市長、斉藤部長

健康生きがい課 藤田副部長、矢部副課長、横山係長、大槻係長、鈴木主任、佐野
介護保険課 田中課長、馬場副課長、安留係長、大久保係長、中村主任

3 傍聴者

一般傍聴者：2名

報道関係者：2名

(4) 会議次第

1 開会

2 委嘱状交付

3 副市長挨拶

4 正副会長の就任について

5 正副会長挨拶

6 自己紹介

7 宇治市高齢社会対策協議会について

8 宇治市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画について

9 意見交換等

10 閉会

会議の経過・結果

1 次第 1 ~ 6

- 1 開会
- 2 委嘱状交付 土屋副市長より委嘱状の交付
- 3 副市長挨拶 土屋副市長より挨拶
- 4 正副会長の就任 司会者を通して会長・副会長の選任
- 5 正副会長挨拶 岡本会長及び伊藤副会長より挨拶
- 6 自己紹介

2 次第 7・8

宇治市高齢社会対策協議会について、
宇治市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画について
事務局より資料の説明

3 次第 9 意見交換

委員：皆さん、自由に意見を発言いただきたい。

委員：資料19ページの重点課題4に“高齢者の尊厳への配慮と権利擁護の充実”とあるが、高齢者の尊厳は宇治市だけではなく、日本全体の問題となっている。高齢者が希望しない延命措置が問題となっており、安心して自分の最期を決めることができるシステム作りが大切である。事前ケア計画が必要となっており、宇治市でも研究や施策として取り組んでいただきたい。

委員：私は高齢者に関する活動について、3つのことを行っており、その活動は重点課題5の“高齢者の生きがいづくりと社会参加の支援”に当てはまると考える。

1つ目は、菟道第二学区福祉委員会の会長としての活動である。この委員会では、委員の高齢化が大変進んでいるため、平成30年までの中期ビジョンを設け、委員会のあり方について議論している。議論の内容は、安全・安心・防災・防犯 新鮮感のある活動・健康増進と認知症対策 世代を超えての優しさと笑顔 研鑽・伝える力・地域課題の吸い上げと情報の共有 機能・行動等の組織体制 他団体との連携 財政基盤の7つである。委員の高齢化が進んでおり、次期担い手の確保の問題等があることを知っておいていただきたい。

2つ目は、学区福祉委員会連絡協議会（以下学区連協）での活動である。学区連協の今年度の活動方針の1つとして、健康年齢を延ばすことが挙げられており、そのために、各学区で開催できる土壌づくりをすることになりました。対策としては、私は4つのことを考え、これを宇治市として取り上げていただけないかと思ってい

る。一人暮らしの高齢者の見守り サロン（集いの場）の回数増加・参加の工夫
少人数でのウォーキングの増加 薬手帳の普及の4つである。

3つ目は、AKBまちづくり委員会での活動である。Aは安全・安心、Kは快適、
Bは琵琶台を指している。琵琶台では少子高齢化や空き家の増加等様々な問題があ
り、委員会では自治会のあり方等についても検討し、知恵を出し合い何とか解決し
ていきたいと考えている。

本協議会では発言の場が多くあるため、有効に活用していきたい。

委員：保健の領域では、1つのまちの地域支援策として、検討課題を明らかにし、どのよ
うな施策を行うかを考える。現在は市民の方が地区の問題について関心を持たれる
時代であり、その力を信じてどのように施策に活かしていくのかが大切である。そ
のような活動を行う団体が地域には無数にあるが、それぞれの行っていることを共
有できていないため、共有を図り、市民の方が自由に選択できる社会を作る必要が
ある。

また、京都市東山区の栗田学区は京都市内で最も高齢化率が高く、独居や高齢者世
帯が多い。空き家率も最も高い地域であり、現在、地域全体のまちづくりを行って
いる。行政には、各課や係の垣根を越えて問題を共有し、地域住民を主体とした支
援を行っていただきたい。

委員：原委員は高齢者に関する活動を行われる中で、小学校区が活動しやすいのか、もう
少し大きな範囲の方が良いのかご意見を聞きたい。

委員：活動は縮小してきており、私の学区では以前は1つの場所でサロンを実施していた
が、高齢のため、実施場所に遠くて行けない方が多くなり、現在では6つのプロッ
クに分けてサロンを実施している。活動範囲は小さくなってきている。

委員：行政で計画を策定するが、実際に行動するのは現場の方である。現場の方の話を聞
き、地域・現場・行政が協働して計画を策定していかなければならない。

委員：一昨日、城南荘のある団体に対して認知症サポーター養成講座を行った。地域でこ
の講座を行いたかった理由は、「認知症にやさしいまち・うじ宣言」に書いてあるこ
とを地域で作っていきたいと考えているからである。

委員：私は天ヶ瀬苑に務めており、昨年から60人の利用者を2グループに分け、少人数
でのケアを行うことができるように取り組んでいる。介護職は、一般的にマイナス
のイメージを持たれるが、プラスのイメージに変えることができれば、より入りや
すいのではないかと考えている。

委員：ある研究所の介護職の方に対するインタビューで、“介護職は大変だが、介護の素晴らしさを一番に考えている”といった記事を見た。私たちは、メディア等で介護に対してマイナスのイメージを受けているが、様々な場所において現場で働かれている方の口を通して介護の素晴らしさを伝えていただきたい。

委員：介護施設は職員不足で利用者が入所できないところが多いが、天ヶ瀬苑ではどうか。

委員：天ヶ瀬苑は離職率が低く、緊急の方でも対応している。離職率の低さや職員の福利厚生、働きやすさが良ければ、利用者の家族は安心できる。

委員：市の計画策定に関して、コンサル会社に委託されることが多いが、本当に良いのかと思う。以前とは異なる計画を策定した方が良いのではないか。
また、介護や保育等の人に接する仕事はとても重要であるため、議員として、処遇を改善していきたい。
宇治市では10パーセントの空き家があるため、高齢者や障害者の方等が寄っていただけるようなサロンとして開放してはどうかと考えている。

委員：AKB委員会の活動を行う中で、自治会組織のあり方について現在困っていることがある。組長や三役になりたくないため、高齢者の方が脱退されることが多く、どのように説得すれば良いのか悩んでいる。
また、委員会は、自治会から諮問いただき、それに対して提言・回答を行ったが、自治会は行事等もあり多忙であり、任期も1年であるため、その後自治会から回答がない。町内会の組織をしっかりと立て直したいと考えている。

委員：国では地域完結型社会と言われているが、実際は地域崩壊社会となっており、2040年には全国の半分の自治体が消滅すると言われている。
人と人、人と制度、制度間の様々な面での関係性が大切であり、それをどのように計画の中に持ち込めるのか方向性を出さなければ、委員会で発言いただく様々なご意見を反映できないと考えている。他にご意見はあるか。

委員：地域包括ケアの軸として、住民参加が大切である。介護サービスや医療制度許認可権が市に移管されることとなるが、その中で市職員1人1人が力を持たなければ市は弱体化してしまう。職員は専門職と考え、人材育成もしっかりと行っていただきたい。
また、コンサル会社への委託は必要ないのではないかと。市が独自の力を持って進めていくことができるように準備をお願いしたい。

委員：行政側の見解はどうか。

事務局：宇治市版地域包括ケアと言っているが、それに書いてあることを文字どおり実行できることが宇治市としての思いであり、職員へも伝えていかなければならない。また、地域で頑張っていたいただいている方の生のご意見を聞かせてもらうことが大切である。

様々な地域で“自分たちで何とかしなければならぬ”と思ってくくださる方が少しずつ出てきていると感じており、計画に掲げている生きがいつくり等に繋がっているのではと考えている。

高齢化が進む中で、昼間に地域におられる方が増え、顔を合わす度に何かできないかという思いを持っておられる方たちが少しずつ顕在化しているのではという希望も含め、地域の力を育てていくために、できることを行っていきたい。

委員：住民参加をどのように促しながらまちづくり・まちおこしを行っていくかが重要である。自治会・町内会の話、一般市民の参加のあり方等議論になる中で、最後は住民が主体となって宇治らしい個性と特徴を持った計画にしていきたい。他にご意見がなければ以上を持って終了させていただきたい。

4 閉会

会議終了

配付資料

- 1 会議次第
- 2 宇治市高齢社会対策協議会委員名簿
- 3 席次表
- 4 宇治市高齢社会対策協議会設置規定
- 5 宇治市高齢社会対策協議会について
- 6 宇治市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画について
- 7 宇治市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画
- 8 宇治市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画（概要版）